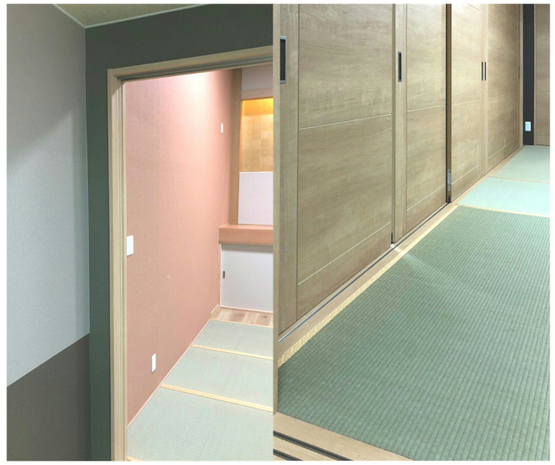
潔く諦め、既存の枠に捉われない構想にシフトチェンジが出来たおかげで、ユニークで斬新なものになり、それが自分達に合った機能性の高い仕上がりに導いてくれました。また、前回お話した本堂を六つに区切って使用する引き戸式の間仕切りもフル稼働で機能しています。お寺で葬儀などが入った際は、小さな部屋を複数配置して利用し、逆に大勢集まるようなイベントの時は引き戸を全て撤去するという使い勝手の良いものになりました。余談ですが、壁紙の配色にもこだわり、祭壇側はあまり本堂には用いないオレンジを使うことで明るく親しみやすい風合いを出し、その他の部分はベージュ・カーキ・こげ茶をバランスよく配分した和モダンな雰囲気にしました。あくまで私のセンスですが、従来の荘厳なイメージではなくアットホームで親近感のある本堂になったかと思います。全体像を見て、非常に個性的でお寺自体の理念を体現するメッセージ性の強いものに仕上がったかと思います。今後更に詳細部分を詰め、より精度を上げていきたいと思います。



（右）　取り外し可能な引き戸で区切ったスペース
（左）　新本堂内装に使用した壁紙の配色

お寺の伝言板

●今後の行事運営について
コロナウイルスの影響により予定していた行事が中止又は延期となる場合があります。当面の行事につきましては、実施の有無をお寺にて随時ご確認下さい。

●ご葬儀の事前相談について
ご希望の方はお気軽にお寺までご連絡下さい。費用や準備のことなどカウンセリングシートを使ってご相談に応じます。

フェイスブックページあります！

facebook

アカウントをお持ちの方は、是非、「いいね！」ボタンを押して下さい。
「観音院」で検索できます。

一緒に御詠歌をお唱えしてみませんか？

～梅花流詠讃歌～

初心者大歓迎！！

お寺では月二回程度、御詠歌をお唱えする会を実施しています。みんなで声を出してお唱えし、御仏の教えや慈しみの心に触れながら、お茶を飲んでお喋りをして楽しく過ごしています。
みんな初心者ですのでお気軽にご参加下さい。

見学・体験は、お寺までお問合せ下さい！

●次回予定日●
4／6（月）14：30
4／27（月）14：30

お陰様で子供達は元気です！

まれい
希衣（四歳）

きほ
希帆（六歳）

きわ
希羽（六歳）

ねね
希寧（八歳）

双子はいよいよ小学生、幼稚園の三年間はアッという間でしたが、お手伝いできるくらいに成長してくれました。四女は年中さんですが三人の姉がいるせいかオマセに育っています。長女はカラオケが上手で今年お寺で始まるギター教室にも挑戦します。

寺報

令和二年 春

冠省　路肩の雪も段々と少なくなって参りました。本来ならもう少し喜びと共に春の訪れを感じたいものではありますが、残念ながら世相を見るとそうはいかないようです。皆様ご存知の通り、毎日新型コロナウイルスの話題が絶えず不安を煽られる日々が続いております。

この局面において改めて気付かされたことがあります。それは私達現代人にとって「わからない」ということがもの凄く大きな不安と苦しみを生むということです。このコロナウイルス騒動の根底にある要因は、新型がゆえに「わからない」ということであり、だからこそセンセーショナルにメディアに登場し、その不安は増長させられているわけです。

少し話はそれますが、私のお邪魔するAさんのお宅では「主人が亡くなって以来毎晩のように夢に出てくる、成仏してるんでしょうか？」と尋ねられ、一方Bさんのお宅では「主人が亡くなってから一度も夢に出てきたことがない、成仏してるんでしょうか？」と尋ねられます。私の立場としては、立証出来ないことを根拠なく一方を断言したとすれば、次には成仏してないことを理由に高価な壺の購入を勧めてくるでしょう。笑）しかしながらこの両者において、一つだけハッキリ言えることがあります。それは人間にとって「わからない」ということが不安だということです。踏み込んだ言い方をすれば「わからない」ということが苦しく、わからないままではいられない…ということです。こういうことは誰でもハッキリと言い切ってもらって、その上で対処していく方が合理的で有り難いかもしれません。実際今の私達の生活において、何かわからないことがあれば、パソコンを開いてボタン一つ押せばすぐにその答えが返ってきます。この環境に慣れるとそうじゃない領域があることを忘れ、すぐに正解が出ない状況に対して、免疫が落ちてしまいます。生きていれば直面するであろうこの「わからなさ」にも少し耐える力を備えるべきでしょう。もちろんわからないことを解明する努力を全否定するわけではありませんが、「わからないことに耐える」という別の思考回路があれば、予測不能な事態でも冷静さを保つことが出来ます。

大凡この世の中にある人知を超えたわからない領域について、他の宗教では神の摂理という名の万能薬が効いて、多くの矛盾を埋め合わせてくれます。しかしながら仏教はそうではありません。「私達にはわからないことがある」とそのまま受け止め、皆でその中で生きていこうというスタンスです。人類は今に至るまでそうしてなんとかやってきたのです。

先ほどの成仏云々のお話で、どちらか一方を断定して事を語るのは、どこそこの霊媒師がやることであって、仏教者の立場とは違います。また仏教者は科学者ではないので、不可解を解明することもしません。誰もが抱えるであろうこの切ない「わからなさ」というものに対し、寄り添いつつとことん付き合っていくのが仏教なのだと思います。今回のような予測不能な事態は、今後も起こりうるでしょう。その不安や苦しさに仏教者は寄り添えるのか、あるいは今何が必要なのか…。待ったなしでその資質が問われているような気がします。

新本堂にてすりガラスシートを貼る住職

澄川地区センターにてお一人様の終活講座実施！

昨年十一月のことですが、澄川地区センターにて「お一人様」をテーマにした終活講座を実施致しました。年に数回、地域への情報提供という趣旨で、敢えてお寺ではなく会館を利用しました。

住職が伝える
終活講座
テーマ
「お一人様」の終活を考えよう！
～今後を後悔と後始末と後回しにしない～
講師　観音院住職　広沢泉宗
今回の終活講座は、「お一人様」にスポットをあてておりますが、理解しやすいようにお一人様の例を挙げましたが、ご家族様がいらっしゃる方にも通じるテーマです。お一人様であっても、ご家族様がいらっしゃっても、ご自分の人生はご自分で終わらせなければならない。ということです。お一人様であっても、ご家族様がいらっしゃっても、ご自分の人生はご自分で終わらせなければならない。ということです。最近の「お葬式」の即対応は、ありがたいのですが、どの宗派の方も参加可能です。
●●●●●●
●動機付けとお出会い　【実は、あなたもお一人様予備軍？】
●お一人様の葬儀・お墓事情　【「私の骨どうしたらいいのかな」】
●お一人様の財産の管理・処分　【「私の財産どうしたらいいのかな」】
●お一人様の財産の納骨堂・お墓の選び方　【「最後の最後のお墓どうしようか？」】
●お一人様の葬儀・お墓の問題　【「私の葬式、誰がやってくれるんだろう？」】
●お一人様のエンディングノート　【「ノートに書いておけば大丈夫？」】
※内容は変更になる場合があります。
お問い合わせ先：お名前をフルネームでお知らせください。
お寺が指定した日時に、お名前をフルネームでお知らせください。
お寺が指定の日時に、お名前をフルネームでお知らせください。
お問い合わせは、お名前をフルネームでお知らせください。
お問い合わせは、お名前をフルネームでお知らせください。
お問い合わせは